

中原神社のイチヨウ（地家室）

地家室、中原神社のイチヨウは巨木であるが他の場所のものとは違っている。このイチヨウの要素は、平成6年の調査によると次のとおりである。高さ20m、目通り幹囲は4.15m、根回りは10.5m。枝張りは東側に約7m、西側に約6m、南側に約10m、北側に約8.5mである。

枝については、他の場所のイチヨウの主枝の太さに比べて細くて角に細い枝が多数出て、全体として大変込み合っている。葉も他の場所のイチヨウの葉に比べてやや小さい。種子は、他の場所のイチヨウと比べて丸く、外のやわらかい皮を取った後の内種子（銀杏）も丸い。銀杏100個あたりの平均で、長さ2cm、幅2.1cmであることから、この数値でも丸いことが



証明できる。

稜線は全て2本で長さ、幅、大きさの変異は非常に少ない。銀杏のなる量は、近くの雄株の状態に影響されるが、非常に多いように思われた。

根元には大小の子苗が密生していた。屋代島ではここから子苗を持っていく人もいるという。ここと同じようなイチヨウの木が屋代島内にもあるという。

〈周防大島町文化財保護審議会 副会長 南 敦〉

10月の初め、周防大島町を会場に「地方創生実践塾」が行われました。地方創生実践塾とは講義やフィールドワークを通して地域活性化についての専門的な知識を学ぶセミナーで地域活性化センターが全国各地で開催しており、今回周防大島が地方創生の先進的事例の場として選ばれました。

台風の影響で出席できない方もいらっしやいましたが、全国から26人の地方自治体職員や地域おこし協力隊が集まりました。2泊3日のスケジュールで定住促進の歩みや観光協会事務局やU1ターンの移住者のお話、山形県朝日町で地域振興をされている佐藤恒平氏とのトークセッション、瀬戸内ジャムズガーデン視察など参加者の方には周防大島の取り組みを十分に知って頂けるいい機会となりました。

地域おこし協力隊員 山崎千寿の

しましまタイムズ

SHIMASHIMA TIMES

10

周防大島町定住促進協議会
☎0820(74)1007

このセミナーを通して再確認できたことは周防大島には周防大島に対する「愛」を持った人が集まっているということです。言葉にすると少し照れくさいですが、島に暮らす私たちの「愛」が周防大島を魅力的にし、周防大島のことをよく知らない人々にも伝わり、地方創生に繋がってゆくのではないかと思います。

さて、次回の海掃除は11月18日(金)午後3時30分から久賀のビー玉海岸で行います。漂着ごみが多く見られます。一緒にきれいな海岸の景色をつくりましょう。



▲佐藤恒平氏と泉谷勝敏氏のトークセッションの様子